

兵庫県養父市「バイオマス産業都市」選定 平成 30 年 11 月 8 日の 朝日新聞但馬版に掲載されました

内閣府など7府省が共同で推進する「[バイオマス産業都市](#)」に認定された兵庫県養父市において(仮称)トヨー養父バイオメタン発電所の建設を進めております。

当社は、国内全域で再生可能エネルギーの他、アグリ事業にも注力しております。当該地域では、特区認定事業者として営農とバイオメタンを組み合わせた事業を開始するなど、アグリ事業の新たな形にも取り組んでおります。

バイオマス産業都市に選定



メタン発電 来春稼働へ 木質発電 事業化の構想も

内閣府など7府省が共同で推進する「バイオマス産業都市」に養父市が選定され、7日、東京・霞が関の農林水産省で認定証が授与された。養父市では現在、家畜の糞尿などを利用するバイオメタン発電所の建設が進み、来春には稼働する見通し。さらに市は、地域の約8割を占める森林を有効に活用する「木質バイオマス発電」の事業化を目指しており、今回の認定を「農業特区」と相まって地方創生の弾みにしたい考えだ。

養父の挑戦

国家戦略特区1号

バイオマス産業都市の認定は但馬地域では初めて。市の構想では、①バイオマス利用の高度化による産業の創出②地域資源の循環型社会の形成③地域資源の循環に学ぶまち——を目指すとしている。

同市大数では、トヨー建設(本社・東京)グループの会社「トヨー養父バイオエネルギー」(養父市)がバイオメタン発電所の建設を進めており、来年4月の稼働、発電を目指し建設が進むバイオメタン発電所(養父市大数(トヨー養父バイオエネルギー提供))

ている。併せて同発電所に牛や豚の糞尿を提供する農家との調整や、残渣でつくる堆肥などを利用する農家との連携も関係者間で進められている。

市によると、認定に伴い、今後、関連する民間事業の計画などに対し、国の補助金を受けられやすくなるメリットがあるという。

広瀬市長は「今回の認定は、畜産廃棄物や食品残渣の有効利用による環境保全、エネルギー確保、農業生産振興につながり、将来への木質バイオマス事業の展開も目指すものだ」とのコメントを出した。(甲斐俊作)

平成 30 年 11 月 8 日付
朝日新聞但馬版